

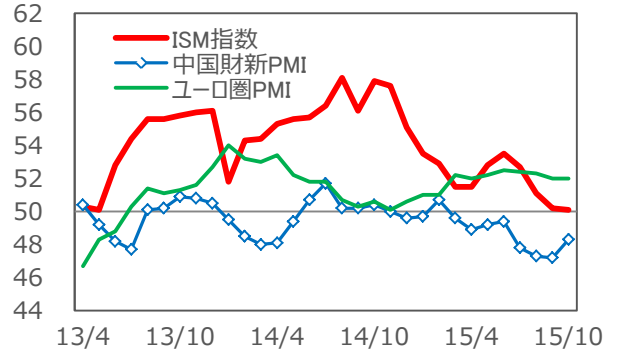
今日のトピック **米国のISM製造業景況感指数（2015年10月）**
製造業の底入れを示唆

ポイント1 **総合指数は50台を維持**

生産、新規受注、入荷遅延が反発

- 10月のISM製造業景況感指数は、総合指数が50.1ポイントとなりました。前月の50.2ポイントから低下しましたが、好不況の分岐点となる50ポイントの水準は維持しました。
- 内容を見ると、総合指数を構成する5指数のうち、需要動向を示す新規受注、生産のほか入荷遅延が前月から上昇しました。低下したのは雇用、在庫でした。

(ポイント) 【主要国の製造業景況感指数】



(注) データの期間は2013年4月～2015年10月。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

ポイント2 **需要の回復を示唆**

輸出の持ち直しによる

- 新規受注、生産、入荷遅延の各指数の反発と在庫指数の低下は、製造業の循環が底を打った可能性を示唆するものです。
- 中国や欧州の製造業購買担当者指数（PMI）が下げ止まってきたことを合わせて考えると、個人消費を軸とする内需の堅調さに加え、輸出も持ち直してきたことが背景にあると見られます。製造業の雇用調整も今後、一巡すると予想されます。

【ISM製造業指数】

	(ポイント)			
	8月	9月	10月	前月比
総合	51.1	50.2	50.1	▲0.1
新規受注	51.7	50.1	52.9	+2.8
生産	53.6	51.8	52.9	+1.1
雇用	51.2	50.5	47.6	▲2.9
入荷遅延	50.7	50.2	50.4	+0.2
在庫	48.5	48.5	46.5	▲2.0

(注) 総合指数は、上記の5つの構成指数の平均。
(出所) ISMのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **製造業の活動は年末にかけて上向く見通し**

- 9月の製造業生産は前月比▲0.1%、製造業受注は同▲1.0%と、ともに2カ月連続の減少となりました。中国経済の鈍化等による輸出の伸び悩みが原因と考えられます。
- ただ、利下げ等の景気刺激策の効果で中国経済は今後、回復に向かう見通しです。今回のISM製造業指数の動きと合わせて考えると、製造業の生産は年末にかけて上向くと予想されます。

ここもチェック! **2015年10月30日 米国のGDP成長率（2015年7-9月期速報値）**
2015年10月29日 米国の金融政策（2015年10月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。